

2001  
7/20-22

あれから半年あまりが過ぎる。

正月の厳しい厳冬期に登ってから今再び2人で足を踏み入れている。

厳冬期の厳しい自然は全くなく、この7月は優しい高山植物類が歓迎してくれている。

しかし、その反面一般登山客や観光客が多く、ロープウェイ待ちも2時間とすごい人・人・人である、我々の前にザッと1000人はいるだろう。

結局、千畳敷に着いたのは11時を回っていた。

だが、今回は充分すぎる時間をとってあるのでなんら慌てることもない。



南アルプスより御来光・・・雲上の檜尾岳より



乗越浄土にて

## Central Alps Mountaineering

20日 快晴

雑踏の世間からユートピアの世界へ・・・

今日の行程は極楽平を登り、檜尾岳までの行程である、ゆっくりでも約3時間ほどで行ける予定である。

ハエマツやナナカマドの見事な緑、白・黄・紫に見事に乱舞している小さな高山植物

類、突き抜けるような真っ青な青空・・・見事に調和している原色の世界である。

島田の娘の稜線を過ぎ、濁沢大峰の少々危なっかしいところを過ぎるといよいよ檜尾岳へと続く道が見えてくる、しかしこれが高低差300m下ったのちに再び400m登り返しとなって戦意消失するところである。

檜尾岳に着いたころは15時を回っていた、隠れテントサイトにはだ～れもいない、我々



コイワカガミ

が一番乗りである。ここからの展望は素晴らしく中央アルプスの高山が全て見渡せ、視界が良ければ南アルプスの後ろに富士山も見られる絶好の

キャンプサイトなのである。難点は水場までは少々難儀して往復は30分はかかる。

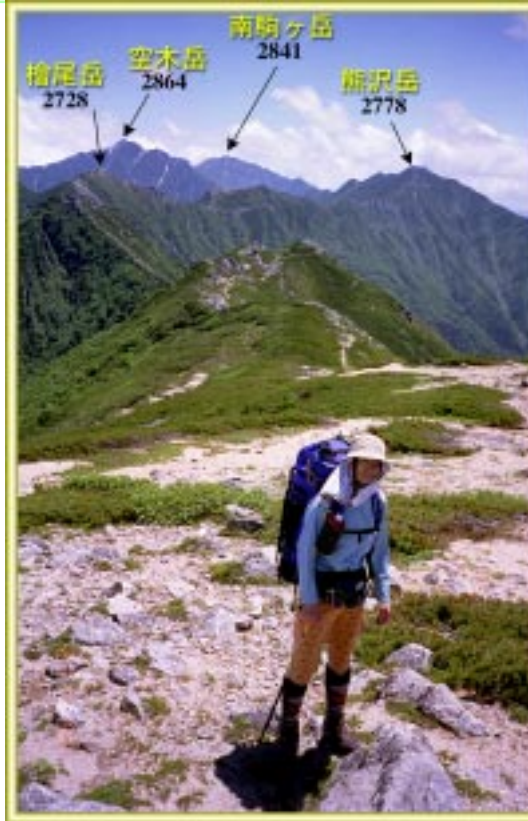
夜は残念ながら西方面は濃いガスにおおわれ夕日は見られなかった。

山の夜は早く19時過ぎになると2人とも早々とシュラフに潜り込んでいた、ちなみにこの夜の外気温は15度であった。20時頃雨の音で目が覚める、外に出ると視界10mほどの濃いガスに覆われ足元もおぼつかないほどである。22時頃コキジに起きると何と、満天の星空が・・・宝石を散りばめたようにものすごくきれいである、しかし山の景色はめぐるましく変わりガスがすぐにはびこってくる。ホントに摩訶不思議である。

21日 快晴

お花畑の中の素晴らしき稜線歩き・・・

岩ヒバリの鳴き声とともに5時過ぎ目ざめると御来光が、雲海に浮遊する南アルプスか



Central Alpsの主峰

ら顔を出していた。素晴らしい光景に彼女もしばし見とれ時間の経つのも忘れる。このような光景を目の当たりにするのは生まれて初めてなので当然であろう。



チシマギキョウ

太陽が昇ってくるにつれてその光に応えるかのように雲海が波打ち動き、まるで白く大きな生き物が太陽の一部であるかのようなのである。いつしかその光は山々に照らされ緑一面の山がそれに応えるかのようにキラキラ輝きだし朝の挨拶をかわしている。今まさに今日の中央アルプスの朝のおとずれである。

そんな光景を見ながらマグカップに注いだモーニングコーヒーを口にする・・・なんと贅沢きわまらないカフェテラスであろう。



雲上のテントサイト

今日は、檜尾から引き返し極楽平を過ぎ、少しスリルあるゴツゴツの岩山の宝剣岳を登り、中岳を過ぎ、頂上小屋キャンプ場に着く。そこから空身で中央アルプス最高峰の木曾駒ヶ岳に登り、いつもお世話になっている頂上木曾山荘のオヤジに挨拶に行き、木曾駒ヶ岳をトラバースしてキャンプ場に帰って来る行程である。

9時も回ったころ、濁沢大峰の岩綾地帯に

さしかかると早朝入山のパーティーが続々と空木岳を目指して登ってきている、老若男女まだ初日とあって疲れた様子もなく朝日を浴びて元気一杯である。



さぁ、宝剣岳 2931 にアタックだ！



木曾駒ヶ岳 2958 頂上

着だ。1人600円は高いがトイレや水が無料使用なので安いほうであろう。テントサイトは中岳と木曾駒ヶ岳のコルにあり視界的には少々不憫なところである。

11時過ぎ、宝剣岳と三ノ沢岳の分岐点にたどり着く。

さぁ、今からこのゴツゴツの岩山宝剣岳にアタックだ。その前に腹ごしらえでラーメンタイムとする。山での寝床、食事係は一切私が仕切っているので彼女はただただ景色に堪能しているだけである、これも日々頑張ってくれている彼女への私からのささいな恩返しである。

宝剣岳への登りは真下に千畳敷の急な岩綾地帯が見えるので最初は少々ビビってしまいがちだが、しだいに目も慣れて緊張した顔に笑みも見えだし無事に登り終え宝剣山荘にたどり着くと、乗越浄土には千畳敷を上がってきた観光客や登山者でごった返していた。

1月や4月にはほとんど人には出くわさないのに、夏はなんというポピュラーな山に変身するのであろうか。

中岳の祠に登山祈願をして13時過ぎにキャンプ場

テント設営を済まし、空身で木曾駒ヶ岳に登ると、銀座並に人で一杯である。早々に通り過ぎ頂上木曾山荘のオヤジに会いに行く。相変わらずおっとりとしたいいオヤジで久しぶりの再会に花が咲きコーヒーをよばれる。

帰りは木曾駒ヶ岳の巻き道を通り、ここが去年の5月究極のトラバース地点やったのやと彼女に説明すると「落ちたら死ぬね」と涼しい顔であった。

15時過ぎテントサイトに再び戻りビールで乾杯しながらゆっくりとした時間をくつろぐ、その間視界をさえぎるほどの濃いガスが幾度もすごいスピードで沸き上がってきている。

17時を回った頃、パスタ料理とジフィーズランチで夕食を済ませる。この日もガスで残念ながら夕日は拝めなかった。



白いコマクサ

19時を回ったところにはテントに潜り込んでいた、すると昨日同様に雨が降りだしてきた、今日は22時頃まで降り続きテント内はまるでドラムでもたたかかれているようであった。23時頃に目を覚ましテントから出ると、ものすごい星が空一杯に輝いていた、Milky Way (天の川) もはっきりと見え2人で「すごいなあ～」と感激していると次々とテント外に人影が見えだし「わ～あ、きれいだねえ～」と感慨しきっている・・・とその時一瞬ではあるが Shooting Star(流れ星)が・・・私だけのご褒美であった。

## 22日 快晴

### 天然クーラーから動力クーラーへ・・・

4時過ぎ、いやに外が騒がしく目が覚めるが外はガスで視界不十分であるにも関わらず、早いパーティーは行動開始している、山の朝は早いものである。

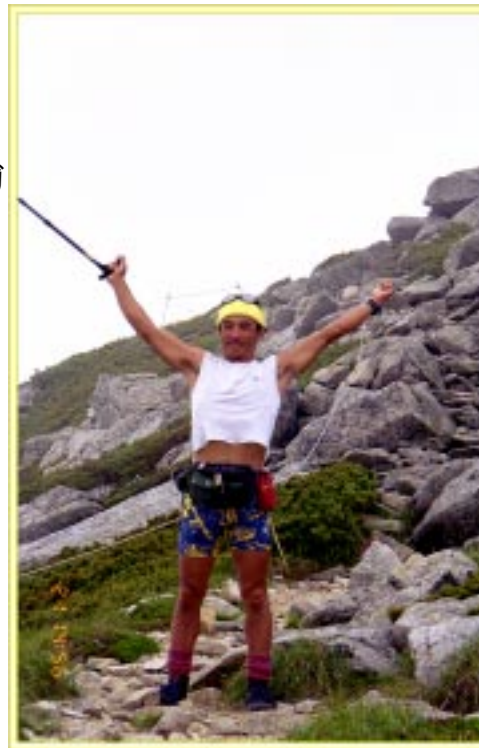
5時前、八ヶ岳連峰からの御来光である。やはり伊那の町に雲海が覆い尽くし幻想的な雰囲気をかもしだしている。早速コーヒータムにとりかかるが、今朝の気温はなんと5度、寒いのでカップを着込む、下界では熱帯夜が訪れているというのに考えられない世界である。

### 今日は下山日。

中岳をトラバースしている途中木曾駒ヶ岳の肩付近からいきなりでっかい虹が表れた、すごいご褒美



八ヶ岳からの御来光



最高のご褒美をありがとう！

である。西側の側面から見る中岳はまるで北アルプスの北鎌尾根のノコギリのような鋭利な岩肌である、そこに後光が射しているかのように光が分散し素晴らしい虹をかもしだしているのであろう。

今朝は一番澄み切っているようで南アルプスの背後にでっかい台形の富士山が顔を覗かしている。

二人にとってこの3日間は、素晴らしいユートピアを堪能させていただき気持ちをリフレッシュでき、この中央アルプスに感

謝するしだいである。外界から離れ電気も車もない生活は人間の本能を呼び戻すにはもってこいである。

さあ、今からまたあの雑踏のルールに縛られた下界に戻るのかと思うと・・・しかし、これが今の現実である。

### PS.

今回の山行は私にとっては日本海のシーカヤックと同様にゆっくりしたペース縦走で、サザエ・アワビのように口にするご褒美はないものの素晴らしい景色に出会って2人にとって充分すぎるご褒美であった。私にとってはこの8月に北アルプスに入山するにあたっていい高度順化ができた。

檜尾岳、頂上木曾キャンプ場の両方とも携帯のメールがつかったのにはびっくりだった。しかしガスが沸き上がってくるといきなり圏外になっていた。この連休は我がチームのメンバーは北は北海道のX-Adventure、南は九州の五島列島でのアイアンマンと日本各地に飛び回っていたがすべてメール通信が出来たのには一昔前では考えられないことである。自分の居所が分かることは吉も悪しにも素晴らしいことであろう。